

幼稚園教育指導者講座について

安藤 寿美江

現場の教員やその指導にあたる人々が、平素の経験と研究とを持ち寄り、教育上面する諸問題についてお互の資料を交換し、討議を重ねて指導者としての基礎的教養および指導能力を高め、幼稚園教育の改善充実をはかるのが、この講座の目的であります。

この講座は、昭和二十九年に始めて、東は東京、西は京都で開催されて以来、毎年、所を変え、文部省および開催地委員会・開催地所在の教員養成の学部をおく国立大学の主催で続けられ、今年で第六回を終えたものは昭和二十四年発足の文部省主催初等教育研修会の分科会、幼年教育班（参加者は幼・小合わせて約四〇名）だったそうです。それでは、幼児教育のめざましい発展と共に成長してきたこの講座の歴史を先ず、その班別研究の主題を通してふりかえってみましょう。

○研究テーマについて

次頁の表によつて、過去六年間の研究テーマを眺めてみますと、その時期の幼稚園教育の動向が伺えておもしろく思うと同時に、次のようなことが感じられます。

始めの頃は比較的幅のある漠然とした傾向が強かったが、次第に問題の焦点がしぼられると共に、具体的になってきたようです。これは限られた時間内での研究にはたいへん結構なことで、漠然としているためにいろいろな解釈されるような問題は困ります。その班の参加者一同が共通理解を持つためにまる一日もかかってしまったなどという笑えない話もあります。

また、テーマにくりかえしや、ダブルがみられます。これは、その時、その時に当面する諸問題をとりあげるといふこの講座の性格上、やむを得ないこととも思われませんが、継続研究として、何か一貫性といふ

か、積み重ねというか、そうした軸があつてほしいと考えます。

○全体研究について

従来、主催地の大学の権威ある先生の講演を伺うということが多かったようです。しかし初めの頃は、別に全体協議のテーマをいくつか持ち、それについて参加者全員の討議研究がおこなわれたようですが、一度だけで姿を消したところをみるとあまり研究効果が期待できなかったためかと思われまふ。

今年はこの方面の新機軸として、音楽リズム班の研究内容の一部に関連して、「動きのリズムの基礎的指導」の実技指導が加えられました。こうした技術的面の指導については、必要に応じて実技を伴うことはその向上を図るためには適切なことと思われまふ。但し、このことに傾くといわゆる講習会的性格になりやすいのではないかと案じられます。

○運営について

毎年開催地を変え、その都道府県の教育委員会および教員養成の国立大学が文部省と共に主催され、他の土地のこの方面の権威者にたよらないといふことは、主催地の

昭和二十九年(東京・京都)

- 一、健康教育はどのようにしたらよいか。
- 二、性格教育はどのようにしたらよいか。
- 三、幼稚園における製作はどのようにしたらよいか。(東京のみ)

- 四、表現活動について(京都のみ)
- 五、社会環境と生活指導について(東京のみ)
- 六、自然および社会生活の指導はどのようにしたらよいか。(京都のみ)
- 七、幼稚園の経営はどのようにしたらよいか

昭和三十年(神奈川・岡山)

- 一、幼児を集団生活に参加させるには、どのような方法が適切か。
- 二、遊具による健康の指導はどのようにしたらよいか。
- 三、数遊びの指導はどのようにしたらよいか
- 四、ことばの指導はどのようにしたらよいか

- 五、自然の指導をどのようにしたらよいか。(岡山のみ)
- 六、幼稚園教育の効果をあげるために、家庭との関連をどのようにしたらよいか。

昭和三十一年(埼玉・山口)

- 一、年単位および日単位の指導計画の適切な作り方は、どのようにしたらよいか。
- 二、運動や遊びの指導は、どのようにしたらよいか。(安全・危害予防を含む)
- 三、友だちと仲よくしたり協力したりする指導は、どのようにしたらよいか。

- 四、自然に対する観察態度の助長は、どのようにしたらよいか。
- 五、進んで話をする指導は、どのようにしたらよいか。

昭和三十三年(宮城・福井)

- 一、幼児指導要録
「指導の記録」欄、記入の手順
- 二、健康
- 1、手洗、用便、食事の習慣形成の系統的指導法
- 2、低鉄棒、すべり台、ぶらんこなどの発

- 展的系統的指導法
- 三、音楽リズム
- 1、「音程やリズムに気をつけて歌う」系統的指導法
- 2、「曲や歌に合わせて、自由にリズム的な動きをする」系統的指導法

- 四、視聴覚教材の利用
- 1、幻燈、紙しばいの効果的な利用法
- 2、ラジオ、テープレコーダーなどの活用
- 五、学級経営
- 1、保育室の環境構成
- 2、学級編成のしかた

昭和三十三年(福島・香川)

- 一、指導計画 指導計画を立案するにあたって、望ましい経験(健康を例として)の分析をどのようにしたらよいか。
- 二、自然 「山、海、川、動植物、天体の美しさを鑑賞する」および「磁石、虫めがね

- などを使って遊ぶ」指導をどのようにしたらよいか。
- 三、言語 言語経験を豊かにするために、絵本の指導をどのようにしたらよいか。
- 四、絵画製作 「クレヨン、絵の具、粘土、砂などを使って、絵をかけたたり物を作ったりする」指導はどのようにしたらよいか。
- 五、幼稚園経営
- 幼稚園の目的から考えて、現状をどのように反省し、改善したらよいか。

昭和三十四年(青森・長崎)

- 一、社会 友だちといっしょに、仕事や遊びができるようにする指導はどのようにしたらよいか。
- 二、言語
- 1 話合いにおける話題を広げる指導は、どのようにしたらよいか。
- 2 日常のあいさつの用語はどの程度使えるようにしたらよいか。
- 三、環境構成 保育室内における環境構成はどのようにしたらよいか。
- 四、音楽リズム
- 1 リズムを正しく養う指導はどのようにしたらよいか。
- 2 リズム楽器に親しませる指導はどのようにしたらよいか。
- 五、視聴覚教材の利用 ラジオ、幻燈などの教材を聞いたり見たりする初期の指導は、どのようにしたらよいか。

昭和三十四年(青森・長崎)

- 一、社会 友だちといっしょに、仕事や遊びができるようにする指導はどのようにしたらよいか。
- 二、言語
- 1 話合いにおける話題を広げる指導は、どのようにしたらよいか。
- 2 日常のあいさつの用語はどの程度使えるようにしたらよいか。
- 三、環境構成 保育室内における環境構成はどのようにしたらよいか。
- 四、音楽リズム
- 1 リズムを正しく養う指導はどのようにしたらよいか。
- 2 リズム楽器に親しませる指導はどのようにしたらよいか。
- 五、視聴覚教材の利用 ラジオ、幻燈などの教材を聞いたり見たりする初期の指導は、どのようにしたらよいか。

御苦労を感謝すると共に、反面、幼児教育研究の全国的な発展、普及のためにたいへん結構なことと思います。

ところが、この運営に関し、毎年参加者一同から強い要望が出、当局にも再三お願ひしていることですが、なかなか改善していただけない問題が一つあります。

それは、事前研究のための手引書の送付がたいへんおそいことです。東京では例年会期までにあと一か月しかないというころでないといふまでもありません。地方によっては二週間ないし一週間前というところもあるようです。そのため参加者は、短時日に多くの問題と取り組み、地域代表の責任を感じつつ、あたふたと研究をまとめねばならない破目に追い込まれます。また、各班の実態調査も同時に各園に舞い込み、一学期末の多忙な時期にまさに実態調査合戦が展開され、いきおい、回答数が少なくなるといふことで研究の成果に大きく影響することになります。

ことに、系統的・組織的……などという広汎な問題に取り組むとたいへんです。一か月といつても例年、東日本は一学期末の多忙な時期にかち合いますから、その間を縫ってやっと各班数回の事前研究を持ちます。数人の班員がたくさんの資料を持ち込

み、夢中になって意見をいい合っている中に、夜もすぐ九時、十時をまわりあわてて解散するという状態が続いてどうやら資料の原稿をまとめ、出発ぎりぎりにやっと印刷が間に合うというのが、ここ二、三年来の東京都の現状です。

折角、国・公・私立が手をつないでの全国的な研究会ですから、これを大いに權威あるものにするためにも、事前の研究をもう少し充実させる必要があります。それには少なくとも三か月、欲をいえば六か月前には研究のための手引書がほしいものです。

○参加者の経済的負担について

公立では旅費・宿泊費の実費は本人が自弁しなくてもすむでしょうが、私立の場合には園によって、全額支給、半額支給、あるいは全部自弁というようにまちまちのようです。

このほか、事前研究をまとめた資料の印刷費ですが、東京の場合、提案する班の分だけは都の委員会が負担します。しかし、その他の班は参加者が分担します。ある県などは、事前研究や印刷費のために相当多額な金額を支出してくれるそうて、まことにうらやましいことです。参加者はその地域の代表として責任を感じ、熱心に研究を

すればする程、印刷費の負担も多くなるといふのでは、矛盾を感じないわけにはいきません。何かこの解決策はないかと頭を悩ましています。

ここ三年来、東日本幼稚園教育指導者講座に参加して、その反省や二、三の問題点について述べましたが、この講座が最近の幼稚園教育推進の一つの大きな原動力となっていることはいうまでもありません。とくに、平生は同じ幼児の教育に携わりながらめつたに会うことも話し合うこともない国・公・私立の幼稚園の先生がたが、頭をつき合わせて事前研究をし、また、たとえ四日間でも寝食を共にして研究三昧に没入することは、お互いの視野を広め、人間関係を深める意味で非常に意義があると思います。この講座をきっかけに同じ年に参加した地域の公私立幼稚園の先生がたが、その後引きつづき継続研究を進めるとか、時どき集まっては日常の保育問題について懇談するといったことは、まことに望ましい傾向だと思えます。

とにかく日本の幼稚園教育の一つの大きな泉盤であるこの指導者講座が将来ますます改善され、発展することを祈って筆をおきます。

(東京都指導主任)